Ⅳ　導入に向けた取組内容

4　実需者ニーズ調査及び市場調査について

(1) 島内既栽培農家への聞き取りアンケート調査と課題整理

①調査戸数概要

飼養頭数規模（頭）	調査戸数（戸）
1 ～ 4	1
5 ～ 9	4
10～19	4
20～29	5
30～49	4
50～99	3
100～	2
総計	23

②栽培者の平均飼料作付面積とうちﾄﾗﾝｽﾊﾞｰﾗ作付面積等

飼料作付面積（a）	うちﾄﾗﾝｽﾊﾞｰﾗ作付面積（a）	うちﾛｰｽﾞｸﾞﾗｽ作付面積（a）	うちｷﾞﾆｱｸﾞﾗｽ作付面積（a）	うちその他草種作付面積（a）
469	145	301	72	40

③栽培者のﾄﾗﾝｽﾊﾞｰﾗの栽培歴等

平均栽培歴（年）	年数幅（年）
7.8	0～15

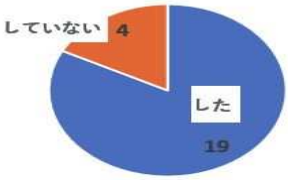
長い人では15年前から栽培している人もいる。

④栽培した経緯

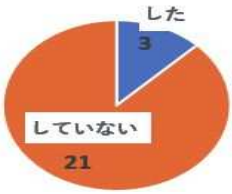
ほとんどが，知人に勧められ，苗を分けてもらっている

⑤植付（播種）方法

⑥播種後の覆土鎮圧の実施



⑦播種後のかん水の実施



かん水はしていないがほとんどが播種を梅雨前にしている。

⑧栽培者の平均的な年間利用方法等について

年間刈取回数（回）	刈取草高（cm）	基肥肥料名（例）施肥量（kg/10a）	追肥肥料名（例）施肥量（kg/10a）	牛の嗜好性等
4.3	55	追肥と同等か堆肥堆肥は2～4ｔ程度	べぶ500，ｵｰﾙ14 36.5	全ての牛で良い

⑨給与対象牛

⑩今後の栽培面積

⑪定着のための一番のポイント

⑫定着のポイントとその具体例について

ポイント	具体例（主な回答）
ア　苗の長さ	20cm以上
イ　苗の播種量	30cmを種の2～3倍量の面積に播種
ウ　苗を乾燥させない	梅雨時期前での播種，雨予報前の播種
エ　その他	鎮圧必要，単播が良いなど

ポイントは①苗を乾燥させない，②苗の播種量，③苗の長さ。

種子繁殖ではないが，刈り遅れたり，粗放管理による隣接畑への侵入は注意する。雑草化しないように注意は必要である。

⑬その他の意見等（デメリット等含む）

- 生育初期は30cm程度で切る回数を増やす程被覆が早い
- 多施肥（堆肥）では硝酸態窒素蓄積があるので留意必要
- 種子飛散はないが畦間やほ場間の雑草化には注意が必要
- 課題として，バラマキの機械化→マニュアスプレッダ利用

(2) 取組や成果に関する意見徴収

実証ほの設置内容等については，主に畜産試験場に相談を行い，随時，成績検討等を行いながら進めた。

また，種苗メーカー担当者や農業専門普及指導員の来島の際にも，随時進捗状況等や成果等について意見を聴取した。

(3) アンケート結果等の波及・課題の情報共有（検討会，研修会）

R2年9～12月に行った上記聞き取りアンケート調査の結果は，セリ市前研修で資料配布し，技術波及とともに農家の意見等を聴取し，実証ほ設置等に役立てた。

また，R3年11月30日の営農技術･経営研修会では，実証ほ等の事業成果を波及した。

さらに，R4年3月には，栽培推進に向け，農家向けのリーフレットを作成・配布した。

Ⅳ　導入に向けた取組内容

5　成分分析について

(1) 成分分析内容及び結果

島内の既トランスバーラ栽培農家の成分分析を畜産試験場に分析依頼し，経年劣化や追肥の効果等について整理･検討し，母牛及び子牛への給与事例を基に，トランスバーラを給与することでの経営改善効果等を評価した。

①調査概要

ア　分析サンプル数　39件（11戸）

イ　調　査　項　目　粗蛋白質（ＣＰ）

②結　　果

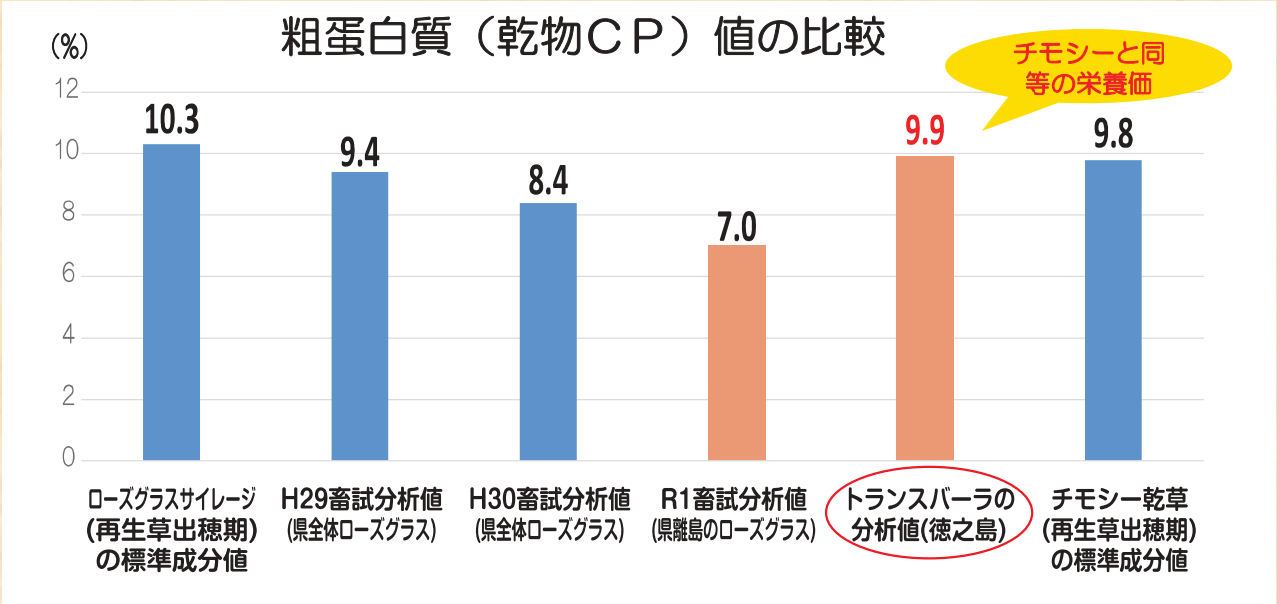
・1年産から15年産までのトータルの平均ＣＰは9.9%（3.8～20.6）で，島内ローズグラスと比較して高く，購入乾草のチモシーと同等であった。

・１年産から１５年産までの幅広いサンプルだが，成分的な経年劣化は少ない。ただし，刈り遅れや追肥量不足によってＣＰは低下する傾向があった。

・植付時の堆肥の過剰投入により，硝酸態窒素蓄積が認められた。成分分析結果を踏まえて，刈取時毎の追肥量は，窒素量５kg/10aが適正と判断した。

③その他留意事項

・隣接ほ場への種子飛散による雑草化はないが，茎葉繁殖によるほ場侵入は考えられるので，ほ場周辺や畦等の防除･管理は必要である。



(2) 経営改善効果（(3)給与例と経営改善効果試算参照）

・島内では，子牛へのチモシー等の購入乾草給与や母牛へのローズグラスサイレージ給与が多く見られるので，ローズグラスよりもＣＰが高いことや嗜好性が高いことより，子牛及び母牛にトランスバーラを給与することで，下記の経営改善効果があると推察される。

・子牛には購入乾草量の軽減により，飼料費削減効果が期待できる。

・母牛にはローズグラスサイレージ等の成分補完としてメリットがある（栄養改善）。

(3)　給与例と経営改善効果試算

次頁以降参照　※試算は飼葉桶フォームを活用

※給与例と経営改善効果試算

1　子牛への給与事例とトランスバーラ給与によるメリット試算（チモシー削減）

子牛へのトランスバーラ給与によるメリット試算(チモシー削減)

①チモシー給与時

4ヶ月125kg子牛への　チモシーとえづけすいっちと育成飼料給与

離乳後4ヶ月齢125kg　1.1kgDG

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	125	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
25.71

NDF:NFC
1:.

飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中TU/kg
●肉用牛育成用	1.5	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●哺育えづけ用 すいっち	1.5	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	1.0	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

（３カ月で離乳後）

4～5ヶ月齢：６０日×チモシー１kg/日＝６０kg

6ヶ月200kg子牛への　チモシーのみと育成飼料給与

離乳後6ヶ月齢200kg

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	200	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
33.78

NDF:NFC
1:.

飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中TU/kg
●肉用牛育成用	4.0	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●哺育えづけ用 すいっち	0.0	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	2.0	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

6ヶ月齢：３０日×チモシー２kg/日＝６０kg

7ヶ月250kg子牛への　チモシーのみと育成飼料給与

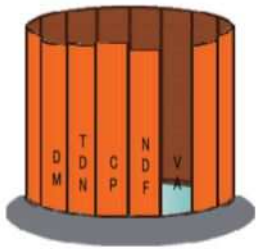
離乳後7ヶ月齢250kg

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	250	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
36.18

NDF:NFC
1:.



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中TU/kg
●肉用牛育成用	4.5	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●哺育えづけ用 すいっち	0.0	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	2.5	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

7～8ヶ月齢：６０日×チモシー２.５kg/日＝１５０kg

9ヶ月300kg子牛への　チモシーのみと育成飼料給与

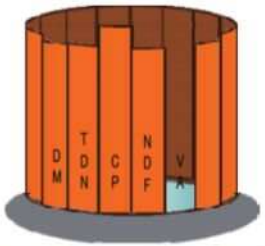
離乳後9ヶ月齢300kg

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	300	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
37.98

NDF:NFC
1:.



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中TU/kg
●肉用牛育成用	5.0	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●哺育えづけ用 すいっち	0.0	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	3.0	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月書試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

9ヶ月齢：３０日×チモシー３kg/日＝９０kg

●4～9ヶ月齢のチモシー給与量・費用

３６０kg×９６円/kg＝３４,５６０円/頭

子牛へのトランスバーラ給与によるメリット試算(チモシー削減)

②チモシーとトランスバーラ生草(乾物率25%の生草)併用時

4ヶ月125kg子牛への　チモシーのみとえづけすいっちと育成飼料給与

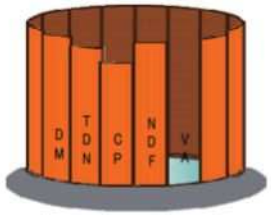
離乳後4ヶ月齢125kg　1.1kgDG

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	125	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
25.71

NDF:NFC
1:.



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物中%	CP 乾物中%	NDF 乾物中%	NFC 乾物中%	EE 乾物中%	Ca 乾物中%	P 乾物中%	VA 乾物中TL/kg
●肉用牛育成用	1.5	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●補育えづけ用 すいっち	1.5	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	1.0	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

（３カ月で離乳後）

４～５ヶ月齢：６０日×チモシー１kg/日＝６０kg

３ヶ月齢まではトランスバーラ無給与

6ヶ月200kg子牛への　チモシーとトランス併用と育成飼料給与

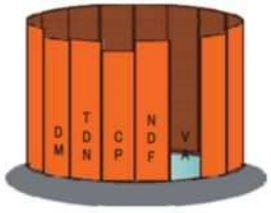
離乳後6ヶ月齢200kg

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	200	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
31.21

NDF:NFC
1:.



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物中%	CP 乾物中%	NDF 乾物中%	NFC 乾物中%	EE 乾物中%	Ca 乾物中%	P 乾物中%	VA 乾物中TL/kg
●肉用牛育成用	4.0	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●補育えづけ用 すいっち	0.0	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	1.5	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	1.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

６ヶ月齢：３０日×チモシー１.５kg/日＝４５kg

３０日×トランス１kg/日＝３０kg

7ヶ月250kg子牛への　チモシーとトランスバーラ併用と育成飼料給与

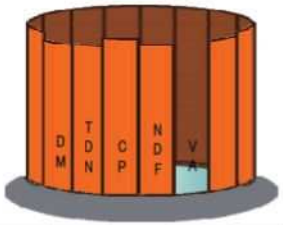
離乳後7ヶ月齢250kg

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	250	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
34.62

NDF:NFC
1:.



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物中%	CP 乾物中%	NDF 乾物中%	NFC 乾物中%	EE 乾物中%	Ca 乾物中%	P 乾物中%	VA 乾物中TL/kg
●肉用牛育成用	4.5	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●補育えづけ用 すいっち	0.0	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	1.5	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	3.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

７～８ヶ月齢：６０日×チモシー１.５kg/日＝９０kg

６０日×トランス３kg/日＝１８０kg

9ヶ月300kg子牛への　チモシーとトランスバーラ併用と育成飼料給与

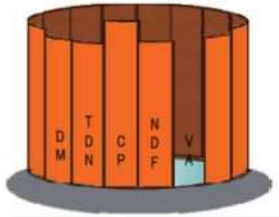
離乳後9ヶ月齢300kg

2021/7/8

家畜区分	黒毛子牛	
体重	300	kg
1日増体量	1.1	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
37.12

NDF:NFC
1:.



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物中%	CP 乾物中%	NDF 乾物中%	NFC 乾物中%	EE 乾物中%	Ca 乾物中%	P 乾物中%	VA 乾物中TL/kg
●肉用牛育成用	5.0	88.0	79.5	17.0			2.8	0.795	0.568	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●補育えづけ用 すいっち	0.0	85.0	73.0	17.5			2.5	0.500	0.300	
○チモシー(輸入)	1.5	89.8	62.8	7.5	68.7		2.1	0.440	0.310	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	5.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

９ヶ月齢：３０日×チモシー１.５kg/日＝４５kg

３０日×トランス５kg/日＝１５０kg

● ４～９ヶ月齢のチモシー給与量・費用
　２４０kg×９６円/kg＝２３，０４０円/頭
　※チモシー削減量は１２０kg（１１，５２０円）
● ４～９ヶ月齢のトランスバーラ給与量（費用０）
　３６０kg/頭
　※肥料代等を考慮してもメリットは大きい

※給与例と経営改善効果試算

2　母牛への給与事例とトランスバーラ給与によるメリット試算（ローズグラスサイレージ削減）

母牛へのトランスバーラ給与によるメリット試算（ローズサイレージ削減）

①ローズグラスサイレージのみ給与時

維持期ローズSのみ母牛への給与体系

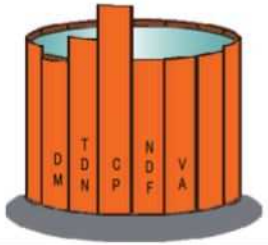
繁殖牛

2021/7/5

家畜区分	黒毛繁殖	
体重	500	kg
1日増体量	0	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
85.99

NDF:NFC
1：1



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中IU/kg
○トランスバーラ(R3年4月番試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●おふくろ産	0.0	88.0	69.3	12.5			2.3	1.136	0.284	
●肉用牛繁殖用	1.0	88.0	78.4	15.9			2.8	0.909	0.682	
○ローズグラス再出穂S	15.0	36.0	55.0	10.3	65.6	8.3	2.2	0.770	0.250	10.0
●なでしこ	0.0	88.0	69.0	13.0			2.0	1.000	0.500	
○トランスバーラ(R3年4月番試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

維持期：（受胎後～分娩２ヶ月前＝２２０日）×ローズＳ１５kg/日＝３，３００kg

妊娠末期ローズSのみ　母牛への給与体系

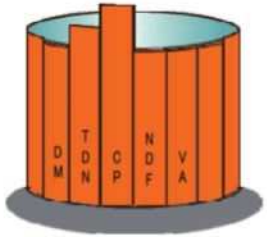
妊娠末期

2021/7/5

家畜区分	黒毛繁殖	
体重	550	kg
1日増体量	0	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期	あり	
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
78.64

NDF:NFC
1：1



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中IU/kg
○トランスバーラ(R3年4月番試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●おふくろ産	0.0	88.0	69.3	12.5			2.3	1.136	0.284	
●肉用牛繁殖用	2.0	88.0	78.4	15.9			2.8	0.909	0.682	
○ローズグラス再出穂S	18.0	36.0	55.0	10.3	65.6	8.3	2.2	0.770	0.250	10.0
●なでしこ	0.0	88.0	69.0	13.0			2.0	1.000	0.500	
○トランスバーラ(R3年4月番試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

妊娠末期：６０日×ローズＳ１８kg/日＝１，０８０kg

泌乳期　ローズSのみ母牛への給与体系

泌乳期

2021/7/5

家畜区分	黒毛繁殖	
体重	500	kg
1日増体量	0	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期	あり	
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
65.63

NDF:NFC
1：1

飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中IU/kg
○トランスバーラ(R3年4月番試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●おふくろ産	0.0	88.0	69.3	12.5			2.3	1.136	0.284	
●肉用牛繁殖用	3.0	88.0	78.4	15.9			2.8	0.909	0.682	
○ローズグラス再出穂S	14.0	36.0	55.0	10.3	65.6	8.3	2.2	0.770	0.250	10.0
●なでしこ	0.0	88.0	69.0	13.0			2.0	1.000	0.500	
○トランスバーラ(R3年4月番試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

受胎まで：１００日×ローズＳ１４kg/日＝１，４００kg

●母牛への合計ローズＳ給与量≒５，８００kg/頭

母牛へのトランスバーラ給与によるメリット試算（ローズサイレージ削減）

②ローズグラスサイレージとトランスバーラ生草併用時

維持期ローズSのみ母牛への給与体系

維持期母牛に粗飼料繁殖用１kgとローズロールとトランス給与給与の場合

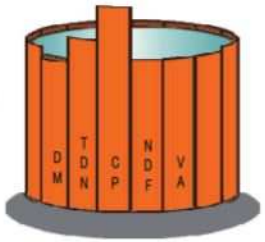
繁殖牛

2021/7/5

家畜区分	黒毛繁殖	
体重	500	kg
１日増体量	0	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期		
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
85.99

NDF:NFC
1：1



飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中IU/kg
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●おふくろ産	0.0	88.0	69.3	12.5			2.3	1.136	0.284	
●肉用牛繁殖用	1.0	88.0	78.4	15.9			2.8	0.909	0.682	
○ローズグラス再出穂S	15.0	36.0	55.0	10.3	65.6	8.3	2.2	0.770	0.250	10.0
●なでしこ	0.0	88.0	69.0	13.0			2.0	1.000	0.500	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

維持期：（受胎後～分娩２ヶ月前＝２２０日）×ローズＳ１５kg/日＝３，３００kg
トランスバーラ無給与

妊娠末期母牛に粗飼料繁殖用2kgとローズロールとトランス給与給与の場合

妊娠末期

2021/7/5

家畜区分	黒毛繁殖	
体重	550	kg
１日増体量	0	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期	あり	
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
79.07

NDF:NFC
1：1

飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中IU/kg
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●おふくろ産	0.0	88.0	69.3	12.5			2.3	1.136	0.284	
●肉用牛繁殖用	2.0	88.0	78.4	15.9			2.8	0.909	0.682	
○ローズグラス再出穂S	15.0	36.0	55.0	10.3	65.6	8.3	2.2	0.770	0.250	10.0
●なでしこ	0.0	88.0	69.0	13.0			2.0	1.000	0.500	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	5.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

妊娠末期：６０日×ローズＳ１５kg/日＝９００kg
６０日×トランス５kg/日＝３００kg

泌乳期に粗飼料繁殖用2kgとローズロールとトランス給与給与の場合

泌乳期

2021/7/5

家畜区分	黒毛繁殖	
体重	500	kg
１日増体量	0	kg/日
泌乳量	0	kg/日
妊娠末期	あり	
群飼育補正		
寒冷期補正		

粗飼料%
65.76

NDF:NFC
1：1

飼料名	給与量 kg	乾物 %	TDN 乾物%	CP 乾物%	NDF 乾物%	NFC 乾物%	EE 乾物%	Ca 乾物%	P 乾物%	VA 乾物中IU/kg
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	0.0	85.0	58.5	8.1	67.5		2.2	7.700		
●おふくろ産	0.0	88.0	69.3	12.5			2.3	1.136	0.284	
●肉用牛繁殖用	3.0	88.0	78.4	15.9			2.8	0.909	0.682	
○ローズグラス再出穂S	12.0	36.0	55.0	10.3	65.6	8.3	2.2	0.770	0.250	10.0
●なでしこ	0.0	88.0	69.0	13.0			2.0	1.000	0.500	
○トランスバーラ(R3年4月畜試分析平均値)	3.0	25.0	56.6	8.7	67.8		2.3	7.700		

受胎まで：１００日×ローズＳ１２kg/日＝１，２００kg
１００日×トランス３kg/日＝３００kg

●母牛への合計ローズＳ給与量＝５，４００kg/頭（約４００kg削減）
●母牛への合計トラスバーラ給与量＝６００kg/頭
※ローズＳの削減量より多くトランバーラ給与が必要だが
栄養価のリスク分散が図れるのでメリットはある

Ⅴ　新品種・新技術の導入状況

【トランスバーラの導入状況（作付状況調査）】

事業開始時前は調査実績がないので，アンケート聞き取り調査を行った戸数とその栽培面積を記載している。事業終了時は，R3年12月に各町が行った作付調査の結果である。令和4年3月現在で，126戸が約135ha栽培している。

	令和２年３月（事業開始前）※アンケート聞き取り農家数		令和４年３月（事業終了前）	
町名	栽培面積（a）	戸数（戸）	栽培面積（a）	戸数（戸）
徳之島	350	5	2,121	41
伊仙	1,851	8	7,915	35
天城	1,130	10	3,460	50
合計	3,331	23	13,496	126

Ⅵ　その他留意事項

【放牧利用事例】

トランスバーラを放牧利用しているほ場状況を2年間観察したが，冬場はイタリアン追播しながら，年間4～5回，草丈40㎝程度で放牧している。再生も良く，放牧にも向いていることが確認できた。

【今後の課題等】

1　種苗の確保

トランスバーラは種子繁殖でないので，栽培には種苗の確保が必要である。栽培相談があった場合は，既栽培者から種苗を分けてもらうように誘導する。

2　さらなる増収方法の検討（結果は次年度）

「ロータリー処理による草勢回復と冬場の増収対策」（R3年12月実証ほ設置）

（試験概要）

①植付後5年以上経過しても生育は良好に見えるが，根切りを行うことで草勢が回復するかを次年度は収量調査を行い確認する。

②冬場の収量確保対策として，根切り後に，さらにイタリアンの追播を行い，増収効果を確認する。

3　春先の植付作業省力化（結果は次年度）

「秋（10月前後）のトランスバーラとローズグラスの混播栽培の検討」

（試験概要）

①例年雨の少ない秋に，畑かんを活用して植え付けることで，春先の労力分散（さとうきびやばれいしょとの作業競合軽減）を図る。

②畑かんのかん水効果確認。

トランスバーラの栽培方法

梅雨前の
4月植えが最適

播き苗法（まきなえほう）の作業工程

（沖縄県畜産研究センターの栽培指針等を参考にしています）

① 植え付ける畑は，十分に耕起（除草剤使用推奨）し，雑草対策をする。また，堆肥や苦土石灰等も投入する。

② 苗にするトランスバーラは，切断する場合は，最低でも２０ｃｍ（２節程度ある状態）以上の長さとする。

③ ばらまく（播種）量は，１００ｋｇ/10a以上とする。

④ 播種後は浅くロータリーで覆土・鎮圧する。

⑤ 発根まで（２週間）土壌水分を保つ（散水施設がない場合の植え付け時期は，梅雨前が望ましい）。

★施肥量等（10a当たり）

堆肥2ｔ，苦土石灰60kg，ようりん60kg，ｵｰﾙ14 60kg

ﾛｰｽﾞ混播の場合はﾛｰｽﾞ（ｶﾘｰﾃﾞｺｰﾄ種子）播種量：6kg

※追肥は刈取毎にｵｰﾙ14 30kg（N量5kg/10a）とする

播き苗法（ローズグラスとの混播）の作業

苗は20㎝以上に切断し軽トラの荷台から散布，大規模ではﾛｰﾙをｶｯﾀｰで切断後ﾏﾆｭｱｽﾌﾟﾚｯﾀﾞｰで散布する

苗を散布したほ場の状況（右は200kg/10a量）

初期生育状況（右播種後12日，左33日）

ﾛｰﾗｰがない場合は軽ﾄﾗで鎮圧

すき込み後にﾛｰｽﾞ播種（大規模ではﾌﾞﾛｰﾄﾞｷｬｽﾀ利用）

ﾛｰﾀﾘｰで浅くすき込む（左はすき込み後）

※ﾛｰｽﾞは褐点病にやや抵抗性のあるｶﾘｰﾃﾞに限る